

美術科学習指導案

授業日時 平成30年9月6日(木) 第3校時
授業学級 2年 C組 男子20名 女子20名 計40名
授業会場 美術室(312) 教室
授業者 _____
指導教員 _____
指導者 _____

1 題材名

工芸 ランプシェード

2 題材の目標

ア【美術への関心・意欲・態度】

ランプシェードを作ることを通して、ランプは機能的な面だけではなく形や色、素材からなどからも大きな影響を受けていることを知り、様々な素材の違いや良さに気づき、自分の制作に活かそうとすることができる。

イ【発想や構想の能力】

花鳥風月の意味について考え、日本独特の和の感性を感じながら自分の主題を設定し、その主題を意識しながらランプシェードに表せるように構想することができる。

ウ【創造的な技能】

自分の表したいことを意識して、素材の良さを生かしながら試行錯誤してランプシェードの形や光らせ方に表すことができる。

エ【鑑賞の能力】

友と互いの作品の造形的なよさについて、表現の工夫点や制作意図を味わうことができる。

3 題材展開 (全14時間)

学習活動	時間
世の中にあるランプについて知る。	1
花鳥風月の意味を考え、日本人の持つ感性に触れた。	1
自分の表したい花鳥風月に決め、ランプシェードの形をアイデアスケッチした。	1
アイデアスケッチをもとに骨組みの制作や和紙の着彩を行った。	3
骨組みの形を変えたり、和紙の色を工夫したりして、試行錯誤を繰り返しながら自分の作品を主題に近づけていった。	3
実際に灯りをつけてみて、光り方を確認しながら制作する。 【本時】	1
骨組みや着彩をさらに追求しながら、作品の完成を目指す。	3
お互いの作品を鑑賞する。	1

4 本時の主眼

ランプシェードの制作を続けていく場面で、自分で染めた和紙を実際に灯りに当てて和紙の光り具合を味わったり、その光り具合からさらに工夫を加えたりする活動を通して、作品のテーマと照らし合わせてより良い表現方法で制作することができる。

5 本時の位置 (全14時間扱い中 第10時)

＜前時＞自分のイメージを明確にし、イメージ通りに表すにはどうしたらよいか考えながら制作した。

＜次時＞光の当て方、骨組みをさらに追求しながら、ランプシェードの制作を進める。

6 指導上の留意点

- ・制作の進捗状況を見て、それぞれに合った支援ができるようにする。
- ・暗室の混み具合を見て、適宜に誘導することで、スムーズに全員が光り具合を確認することができるようにする。

7 展 開

過程	学習活動・【学習形態】	予想される生徒の反応や意識 (◎)	教師の支援 (・) と 評価	時間
導 入	1, 様々な染め方の和紙やランプシェードの作品を灯りに当てている写真を見る。 【全体】	◎和紙が一枚の部分と二枚重なっている部分では光のめれ方が違うな。 ◎ステンドグラスみたいだ！ ◎光を当てるとそれまでいかなかった模様が浮き出てきた！どうやってつくるのかな。 ◎自分で染めた和紙もどんな風に光るか見てみたい。	・様々な和紙を紹介することで、いろいろな和紙の使い方を知り、表現の参考にできるようにする。 ・実際の作品と、その作品が光っている様子の写真を、その作品に込められた思いと共に紹介することで、作品を自分のテーマに近づけるにはどんな工夫をしたらよいか、表現の参考にできるようにする。	8
学習課題：灯りを当てたときの雰囲気を味わって、よりよい作品にするための工夫をしよう				
展 開	2, 実際に自分の作品や染めた和紙を灯りに当ててみて、その光り具合を味わう。 【個人】	◎光に当ててみるとキャベツの重なり具合がよくわかるね。 ◎パプリカにするには少し和紙の色が薄いかもしれないな。 ◎光を当ててみることによって実際のイメージをつかめてきた！	・暗室の中でふざけないこと、交代して暗室を使用することなどを伝えることで、全員がスムーズに光具合を確認することができるようにする。 ・どんな風に見えるか、見てどんなことを感じるか尋ねることで、自分の作りたいイメージとあっているか、あっていないのなら何が違うのか、考えることができるようにする。	12
	3, 光っている様子を見て感じたことや考えたこと、自分の作品にはこれからどのように光らせるようにしていきたいか考える。 【個人】	◎淡い光を出したいから、もう少しキャベツの葉を重ねてみようかな。 ◎黄色と赤、うまく混ざり合うように光らせるにはどうしたらよいだろう。 ◎花をイメージして作っているけれど、紙の裏に貼るか表に貼るか、どっちがよいかな。	・ワークシートに光がどう見えたのかを記入するよう促すことで、どんな風に見えるのかを言語化して光り方について深く味わうことができるようにする。 ・作品をどのように光らせたいのかのかを記入するよう促すことで、自分のイメージを言葉にすることで自覚できるようにし、そのためにはどんな工夫ができるか考えることができるようにする。	5
展 開	4, 自分で染めた和紙を実際に灯りに当てたりしてしながら制作を進める。 【個人】	◎実際に光に当ててみて、意外と光が強かったからもう少し和紙を重ねてみたい。 ◎黄色と赤、上と下を入れ替えたり、重ね方を工夫してみよう。 ◎和紙を花の形に切って実際に貼って、もう一度灯りに当てて見てみよう ◎和紙を重ねたらだんだん淡い光になってきた。重ねることで形もキャベツになってきたな。 ◎重ねたときに下ににした色があまり見えないう。もう少し濃い色にした方がよいかもしれない。 ◎花がぼんやり浮き出てほしいから、和紙の裏にしよう。	・制作中にも自由に暗室を使えるようにすることで、生徒たちが和紙の光り具合を確かめながらさらに工夫しながら制作を進めることができるようにする。 ・暗室で光り方を見ている生徒に対して、どのように見えるか、これからどうしていきたいのかを尋ねることで、具体的に仕上げに向けてどんな活動をしていくのか考えることができるようにする。 和紙の光り具合をよく味わい、作品を自分のテーマに照らし合わせて、より良い表現方法で制作することができたか。制作している姿や学習カード・ワークシートから評価する。	20
終 末	5, 自分の作品を眺め、本時の振り返りを学習カードに記入する。 【個人】	◎和紙の重ね方を工夫したら淡い光が出せるようになってきたから、あとは光り方を見ながらキャベツの葉脈をつけていきたいな。 ◎和紙の色をもう少し濃くすればいいと分かったから、次回やっていきたい。 ◎和紙の裏側に貼ることに決めたから、次回はどんどん貼っていききたい。	・学習カードに本時工夫したことや考えたことを書くように促すことで、本時の活動を振り返り、次の目標を立てて、さらに自分の作品をテーマに近づけることができるようにする。	5

8 板書計画

学習課題 灯りを当てたときの雰囲気を味わって、よりよい作品にするための工夫をしよう				準備するもの ・学習カード ・ワークシート ・灯りを付けることができる環境 (暗室) ・様々な和紙や、作品 ・パワーポイント
和紙	和紙	和紙	和紙	